

四苦八苦しながら測量の方法を学ぶ県のエンジニアたち。宮本宏一専門 家(エイト日本技術開発)は手を出したいのをぐっと我慢して見守る



日本での研修では、青森県弘前市で橋梁の点検を視察。最先端技術の習 得にも熱心だ

省や自治体の要職に就いていま 担当したころからの長い付き合い るのがうれしい」。その言葉通り、 時から続く人脈が生きている。 のエンジニアたちが、 「隊員時代から知っている多 また彼らと一緒に仕事ができ 今は建設

会にもなる。まさに、一石何鳥、閑期に現金収入を得られるよい機

管理も彼ら自身で続けられる。

農

人々が整備に参加することで維持

ることに。

会社エイ

ト日本技術開発)

る徳永達己I

CA専門家

(株式

る。その作業にも手押しのハンドへと勾配ができるように押し固め端に溝を掘り、道の中心から外側

そう話すのは、道路整備に携わ

路整備に必要な資機材の管理を

ス

トを抑えられる上に、

地域の

海外協力隊として赴任し、

道

機材のみを使った工事だ。ローラーを使ったりと、同

最低限の

重機を使った道路整備よりもコ

との出会いは約30年前、

創出にもつながる道づ を入れてきたのは、 予算がないのなら、 徳永専門家が普及に yきなどで道の両 ©道づくり。 農作 地域の雇用 人の力を使

全国へ対率的な道路整備を

の道づくりを取り

整備ガイドラインがなく、中長期タンザニアには、全国共通の道路

しかし、まだ課題は残って

スコップなどを使い、道の両側に水 路をつくる住民たち。参加型の道づ くりには女性も多く参加している

一路はつくられの手で れる

のほとんどがアスファルトで舗装日本では全国どこに行っても、そ私たちの暮らしを支える道路。 そ

アフリカ東部のうち、アスフびる幹線道路は整備が進んでいるエスサラームなどの都市部から延アフリカ東部の トで舗装されているのは1%

当たり前ではない。 しかし、 世界を見回す その 一例が、

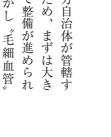
「タンザニアの面積は日本の2

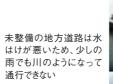
病人を急いで病院に運ぶこともで 市場に持っていくこともできず、これではせっかく作った農作物を 車のタイヤがはまってしまうだけ。雨が降れば地面がぬかる 雨が降れば地面がぬかるみ、

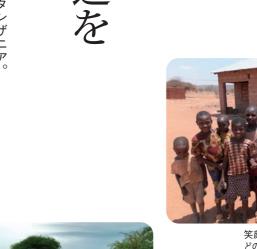
整備する財源が足りなくなってし のように各地に延びる地方の道を てきました。しかし な道路を優先して整備が進められ 大き 2

毛細血管

きいため、まずは大きの地方自治体が管轄す







笑顔で迎えてくれる子どもたち。バスな どの公共交通機関が通らず、学校ま で歩いて何時間もかかる地域もある

From

Tanzania

タンザニア

ダルエス - サラーム

農作物を売るにも、学校や病院に行くにも道路が必要だが約8割の人々が農村で暮らすタンザニア。

その現状を変えようと、現地の人々が立ち上がった。地方ではほとんど整備が行き届いていない。

れぞれが整備を進めていたのだ。的な計画がないまま、国、州、県 材適所の技術を活用することにし 結する道路を優先的に整備す 的に使った仕組みづくりにも着手 いるのも人づくりだ。「計画から なく平らな土地では住民参加型 村と市場を結ぶなど経済活動に直 る未整備の道路の中から、 専門家らは、限られた予算を効率 済が活性化するはず。 いう基準を設けたり、 発注、施工監理まで私たち 移動がスムーズになり、 の道路が整備され 例えば、 人れるなど、適 交通量が少 何百本とあ そこで徳永 まずは 県そ

がら、国内の各州へ普及させるた試験的に地方道路の整備を行いな 期点検といった維持管理方法を見 たちを日本に招き、 現在はドドマ州とイリ 埼玉県を始め全国を回り、 イドラインをつくってい 「県などのエンジニア 青森県や高知 る

ところだ。 めのガイド がら、国内

子離れをしな ンガ州で ていきたい」と徳永専門家は抱負

ければ」と話す。 はお互いが親離れ、

できるようになることで、

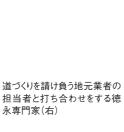
いつか

体に、そしてアフリカ全土に広げ功モデルをつくってタンザニア全

畑と市場、 になって売り上げが上がった」。物を新鮮なまま市場に運べるよう付けに来るようになった」、「農作 られる-出てきた。 つながることで、 。その手ごたえを今、 自身の手で未来は変え 家と学校などが道路で



「農作物の仲買人が村まで買い



発途上国 にノウ

への支援は、

子育てのよ

彼ら自身で考え、

実施

がやってしまっては、

現地の人々

ハウが身に付きません。

開



13 mundi December 2014